

1 年次 全期	看護援助論Ⅰ (対象理解と看護)	講師名	専任教員	必修	2 単位 45 時間
科目のねらい	看護過程の意義を理解し、「生命力の消耗を最小限にし、その人の持てる力が最大限に発揮できるよう」対象に必要な看護を導き出し、看護展開するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。				

回数	授業計画			授業準備と復習
1	看護過程とは	看護過程の定義		<関連内容テキスト>看護学原論、看護学概論、ナイチンゲール三重の関心
2	看護過程とは	看護過程の定義		
3	ヴァージニア・ヘンダーソン看護論			第 3 回までに『看護の基本となるもの』必読
4	ヴァージニア・ヘンダーソン看護論			第 4 回終了後夏季休業中課題：基本的看護の構成要素整理
5	看護過程のプロセス	第 1 段階	アセスメント (情報の収集と分析)	第 5 回目：事例提示必読 第 5 回目までに：A 4 サイズ ファイルを用意すること *授業内に示す日程に沿って下記の指定用紙に看護過程を展開し課題提出 看護実習記録用紙① 看護実習記録用紙②・1、②・2 看護実習記録用紙③
6	看護過程のプロセス	第 1 段階	アセスメント (情報の収集と分析)	
7	看護過程のプロセス	第 1 段階	アセスメント (情報の収集と分析)	
8	看護過程のプロセス	第 1 段階	アセスメント (情報の収集と分析)	
9	看護過程のプロセス	第 1 段階	アセスメント (情報の収集と分析)	
10	看護過程のプロセス	第 1 段階	アセスメント (情報の収集と分析)	
11	看護過程のプロセス	第 1 段階	アセスメント (情報の収集と分析)	
12	看護過程のプロセス	第 1 段階	アセスメント (情報の収集と分析)	
13	看護過程のプロセス	第 1 段階	アセスメント (情報の収集と分析)	
14	看護過程のプロセス	第 1 段階	アセスメント (情報の収集と分析)	
15	看護過程のプロセス	第 1 段階	アセスメント (情報の収集と分析)	
16	看護過程のプロセス	第 1 段階	アセスメント (情報の収集と分析)	
17	看護過程のプロセス	第 2 段階	看護問題の明確化	
18	看護過程のプロセス	第 3 段階	計画立案	
19	看護過程と看護記録			
20	事例に基づく看護過程の実際			看護の対象を理解する実習 B の受け持ち事例に基づき看護過程を展開する
21	事例に基づく看護過程の実際			
22	看護過程のプロセス	第 4・5 段階	実施・評価・修正	
23	評価			

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	看護を実践するための看護過程の展開方法を学びます。また、自己学習の時間も十分確保しましょう。<関連科目の授業資料>看護学概論、形態機能学ⅠⅡⅢ、看護につなげる形態機能学、発達看護論ⅠⅡⅣ<関連技術>看護技術論Ⅰ（コミュニケーション）、Ⅱ（フィジカルアセスメント）、Ⅲ（環境・活動と休息・食と排泄）、Ⅳ（衣生活・清潔）
評価方法	筆記試験 50 点・提出課題（看護実習記録用紙①②） 50 点（詳細は授業時に説明）
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 高木永子著：看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研 ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 使用テキスト
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院 金井一薫：実践を創る 新・看護学原論 ナイチンゲールの看護思想を基盤として 現代社 その他 随時提示
備考	

2 年次 前期	看護援助論Ⅱ (症状アセスメントと看護)	講師名	専任教員	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	「対象の生命力の消耗を最小にするように生活過程を整える」ために、対象が抱える症状が起こるメカニズムを踏まえ、症状に応じた看護を考え、実践する力を養う。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	看護の視点で病を見つける ・症状からくる生活への影響に着目し看護の視点で判断・分析する ・対象の生命力の消耗を最小にするように生活過程を整える	
2	症状アセスメントと看護① 発熱 【演習】	下記の教科書および形態機能学Ⅰ～Ⅲを予習・復習して臨むこと
3		
4	症状アセスメントと看護② 呼吸困難 【演習】	同上
5		
6	症状アセスメントと看護③ 動悸 【演習】	同上
7		
8	症状アセスメントと看護④ 黄疸 【演習】	同上
9		
10	症状アセスメントと看護⑤ 意識障害 【演習】	同上
11		
12	症状アセスメントと看護⑥ 浮腫 【演習】	同上
13		
14	看護の視点で病を見つける まとめ	同上
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント）、看護につなげる形態機能学を踏まえ、予習・復習の自己学習時間をしっかりとって臨んで下さい。臨床推論の考え方にに基づき学習を積み上げていくため、事前学習をもとに授業に臨みましょう。
評価方法	筆記試験 70 点・提出課題（①～⑥の症状に関するワークシート）30 点（詳細は授業時に説明）
テキスト	高木永子：看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研
参考文献	池西静江：看護につなぐ人体の構造と機能 照林社 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア
備考	

1 年次 前期	精神看護学 I	講師名	専任教員	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	こころの発達を理解し、こころの健康について理解を深める。また、危機的状況に陥った時に、どのようにしてこころの健康を保とうとする働きがあるのかを学ぶ。精神保健、精神医療についての概要を理解する。				

回数	授業計画		授業準備と復習
1	こころ（精神）の健康	こころとはなにか こころの健康とは こころを病むということ	関連する基礎科目 の復習をして授業 に臨むこと ・心理学 ・生涯発達論 ・発達看護論 I ・コミュニケーションリテラシー ・看護技術論 I（援助的人間関係） など 事前準備は授業内 で随時提示
2	こころ（精神）の発達	エリクソンの発達理論 情緒の発達と発達課題	
3		フロイトの心理的発達論 自我の機能とこころの構造	
4	危機状況にある人の理解	防衛機制 危機（クライシス）の概念・予防	
5		ストレスと対処 適応と不適応	
6	精神看護の基本的概念	精神保健の概要 精神障害の予防	
7		精神看護、精神科看護の目的・役割・実践 心身相関と健康 リエゾン精神看護	
8	評価		

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	心理学、生涯発達論、発達看護論 I、コミュニケーションリテラシー、看護技術論 I（援助的人間関係）など関連する基礎科目での学びを関連させ学習に臨む。授業内では、ブレインダンプを用いて自己の感情や思考を表現しながら、シンク-ペア-シェアを通して他者と意見交換を行う時間を取り入れている。学習内容確認のワークを通して知識を関連させ学びが広がるよう積極的に臨む。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

1 年次 後期	精神看護学Ⅱ	講師名	専任教員 外部講師	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	自己の看護における傾向や自己洞察を深め、他者理解における自己理解の必要性を知る。対象の理解を深め、看護のアプローチや治療的人間関係へ発展するための知識・技術・態度を学ぶ。また、精神医療にかかわる法制度、人権擁護、倫理を踏まえ精神保健医療福祉と看護について学ぶ。				

回数	授業計画		授業準備と 復習
1	対象と看護師関係の 理解	自己理解と他者理解	関連科目を復習し 授業に臨むこと ・精神看護学Ⅰ ・看護技術論Ⅰ（援助 的人間関係） ・心理学 ・コミュニケーション リテラシーⅠ
2		対象理解の方法	
3		患者－看護師関係の成り立ちと発展	
4		治療的コミュニケーション①	
5		治療的コミュニケーション②	
6		治療的コミュニケーション③	
7	看護場面の再構成	プロセスレコードの目的と活用方法	事前準備は授業内 で随時提示
8		プロセスレコードの実際	
9		プロセスレコードの検討①②	
10			
11	精神保健医療福祉と 看護	現代社会とこころの健康	
12		精神科リハビリテーションと地域精神保健	
13		精神保健の歴史	
14		精神障害がある人を守る法律	
15	評価		

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の 留意点	患者－看護師関係の理解やコミュニケーション技術などは看護を必要とする全ての対象との関わりにおいて必要な内容である。看護の対象を理解する実習での対象と自己との関わりを振り返りながら授業に臨むこと。 授業内では、ブレインダンプを用いて自己の感情や思考を表現しながら、シンク・ペア・シェアを通して他者と意見交換を行う時間を取り入れている。また、実際のコミュニケーション場面をシミュレーション、ロールプレイを行い学びにつなげる。これまでの学習と関連させ学びが広がるよう積極的に臨む。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院 改訂版 看護場面の再構成 日本看護協会出版会
参考文献	随時提示
備考	

2 年次 全期	精神看護学Ⅲ	講師名	専任教員 外部講師	必修	2 単位 45 時間
科目のねらい	精神に障害のある人を理解するため、症状だけに目を向けるのではなく、その人の持つ生活背景や生きてきた過程にも視点をおき、障害がありながらも、その人らしく生活できるための知識・技術・態度を学ぶ。				

回数	授業計画		授業準備と復習
1	精神に障害のある人の症状の理解と看護	MSE（メンタルステータスイグザミネーション） 自我意識の障害	関連科目のうち
2		知覚・思考の障害	
3		感情の障害	
4		意欲・行動の障害	
5	精神に障害のある人の生活の理解	精神科病院での生活	（精神看護学Ⅰ 精神看護学Ⅱ 疾病の成り立ち と回復の促進Ⅳ （精神疾患）
6		地域・在宅での生活	
7		家族の理解と看護	
8	精神に障害のある人日常生活への看護	清潔・食事・排泄	
9		睡眠、活動	
10	精神に障害のある人の治療に伴う看護	薬物療法、電気けいれん療法、行動制限	
11		作業療法・レクリエーション療法・精神療法	
12	精神に障害のある人の疾患に伴う看護	統合失調症のある人の理解と看護	
13		気分障害のある人の理解と看護	
14		パーソナリティ障害、摂食障害のある人の理解と看護	
15		発達障害、アディクションのある人の理解と看護	
16	精神に障害のある人の看護展開	バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの活用	については必ず復習し授業資料を持参する
17		事例紹介、情報整理	
18		症状が日常生活に及ぼす影響の検討	
19		バイオ・サイコ・ソーシャルモデルを用いた対象理解	
20		ストレングスの視点を含めた看護の方向性の検討	
21		看護の方向性をもとにした行動計画の検討	
22		まとめ	
23	評価		事前準備は授業内で随時提示

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	精神看護学Ⅰ、精神看護学Ⅱの学習を復習し臨む。就労継続支援事業所の利用者による体験を聞く講義や、精神保健福祉士による講義を通し、当事者の理解を深めながら多職種の視点を学び、看護師としての対象理解につなげていく。 授業内では、ブレインダンプを用いて自己の感情や思考を表現しながら、シンク・ペア・シェアを通して他者と意見交換を行う時間を取り入れている。また、グループワークや学びの発表を通し学習を深めていく。これまでの学習と関連させ学びが広がるよう積極的に臨む。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

1 年次 前期	地域・在宅看護論Ⅰ	講師名	専任教員	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	地域でくらししている人のくらしや生活の場とその営みを理解し、それらが健康に与える影響を考えることができる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	「くらし」とは何か ・「くらし」とは ・生活者を理解するために地域を知る	自分のくらしや生活をイメージし臨む
2	地域をとらえる①（地域探査）	カリキュラムガイダンスの「グループワーク」を参考に取り組むこと
3	地域をとらえる②（地域探査）	
4	地域をとらえる③（発表準備）	
5	地域をとらえる④（発表）	
6	「生活の場と生活」 ・「くらし」を構成する要素	地域探査の学びを活用する
7・8	「地域でくらししている人の生活と健康」 ・地域でくらししている人の健康状態に応じた生活の場 ・生活が健康に与える影響 ・地域の中にある地域包括ケアシステム まとめ	「看護の対象と場を知る実習」の学びを手がかりに学習すること

履修要件	なし
学習上の留意点	事前課題を必ず確認し、課題には真摯に取り組み、事前準備を整えたうえで授業に臨むこと。また、講義内容についての復習とともに関連する科目の復習をすること。
評価方法	課題（最終レポート）100 点
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社
参考文献	看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア 公衆衛生がみえる メディックメディア 国民衛生の動向
備考	

2 年次 全期	地域・在宅看護論Ⅱ	講師名	専任教員 外部講師	必修	2 単位 45 時間
科目のねらい	地域で生活する人および、その家族を支える在宅看護の概念について学び、地域で生活（療養）することを支える法制度と社会資源の活用について理解する。 また社会の変化と多様化するニーズに対応する地域包括ケアシステムについて理解できる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	地域・在宅看護とは ・地域・在宅看護の歴史と特性 地域・在宅看護が目指すもの	ナーシングチャンネル「在宅看護」の「在宅看護概論」を視聴して臨むこと テキストを読んで臨むこと
2	在宅看護の基本理念 生活（療養）者中心の看護 (エンパワメント・パートナーシップ)	
3	地域・在宅看護論の対象とは	
4	対象の理解と権利保障（個人の尊厳・意思決定支援）	
5	地域をとらえる (地区探査：コミュニティ・アズ・パートナーモデル)	地域・在宅看護論Ⅰの地域探査を復習して臨むこと 地域・在宅看護論実習Ⅰで実践するため活用する視点で学ぶこと
6	地域包括ケアシステムとは①（高齢者）	
7	地域包括ケアシステムとは②（精神・母子）	
8	地域包括ケアシステムとは③ (自助・互助・共助・公助の意義と役割) (フォーマルサービス・インフォーマルサービス)	
9	在宅看護にかかわる法令と制度 ① (介護保険法・医療保険制度・訪問看護の制度)	看護学概論の第 12 回～14 回を復習して臨むこと テキスト公衆衛生がみえるの「社会保障と医療経済」を予習して臨むこと 予習、復習に取り組むこと
10	在宅看護にかかわる法令と制度 ② (介護保険法・医療保険制度・訪問看護の制度)	
11	在宅看護にかかわる法令と制度 ③ (難病法・特定疾患・障害者総合支援法など)	
12	地域における看護活動の場 ① (居宅、療養通所介護事業所、訪問看護事業所、看護小規模多機能型居宅介護、通所サービス、地域包括支援センター、介護施設、老人保健施設)	ナーシングチャンネル「在宅看護」の「様々な在宅看護の実践」を視聴して臨むこと
13	在宅看護介入時期別の特徴 (在宅療養準備期・在宅療養移行期・在宅療養安定期・急性増悪期・終末期) 療養の場の移行に伴う支援	ナーシングチャンネル「在宅看護」の「訪問看護の実際」を視聴して臨むこと 精神看護学Ⅲ「精神に障害のある人の生活の理解と看護」と関連付けて学習する
14	療養する子どもと家族の理解と在宅看護のポイント	
15	高齢者および認知症のある療養者の理解と在宅看護のポイント	

16	難病を患う療養者の理解と在宅看護のポイント	
17	精神に障害がある人の理解と在宅看護のポイント	
18	終末期にある療養者の理解と在宅看護のポイント	
19	地域での暮らしにおける安全 ・暮らしにおけるリスクの理解 ・暮らしにおける災害対策 ・地域・在宅看護における対象者の安全を守る看護	地域・在宅看護論Ⅱの既習学習と関連付けてテキストの予習をする
20	地域包括ケアシステムにおける多職種連携とマネジメント 地域包括ケアシステムにおける看護の役割	
21	在宅看護活動を支えるコミュニケーション 【演習】 訪問マナー	看護技術論Ⅰ、コミュニケーションリテラシーⅠ、人間関係論Ⅰ、看護の対象を理解する実習を復習して臨むこと
22	在宅看護活動を支えるコミュニケーション 【演習】 コミュニケーション技術	
23	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	事前課題を必ず確認し、課題には真摯に取り組み、事前準備を整えたうえで授業に臨むこと。また、講義内容についての復習とともに関連する科目の復習をすること。日常から在宅療養や社会制度に関連する時事に関心に向け受講すること。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践 医学書院 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社 公衆衛生がみえる メディックメディア
参考文献	看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア 国民衛生の動向 厚生労働統計協会、ナーシングチャンネル
備考	

2 年次 後期	地域・在宅看護論Ⅲ	講師名	専任教員	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	地域で生活する人とその家族の多様な生活や価値を土台とした看護実践をするために、日常生活行動に着目し、在宅看護における生活支援および看護展開の基礎を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	科目ガイダンス 対象のとらえ方、在宅における看護展開の考え方、演習の進め方	地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱを復習して臨む 精神看護学Ⅲのバイオ・サイコ・ソーシャルモデル、ストレングスの視点を復習する 科目の全体像をとらえ、事前の課題に取り組み臨むこと 看護技術論Ⅱ～Ⅴで習得した知識・技術を活用して演習に臨むこと
2	地域で生活する人への看護 【演習】 「動く・眠る」援助の実際①②	
3	住環境の調整・ADL 動作獲得への援助	
4	地域で生活する人への看護 「動く・眠る」アセスメントと看護	
5	地域で生活する人への看護 【演習】 「食べる」 援助の実際①②	
6	在宅経管栄養・在宅中心静脈栄養	
7	地域で生活する人への看護 【演習】 「排泄する」 援助の実際①②	
8	排便・浣腸・腹部マッサージ 膀胱瘻	
9	地域で生活する人への看護 「食べる」「排泄する」アセスメントと看護	
10	地域で生活する人への看護 【演習】 「お風呂に入る・清潔にする」 援助の実際・アセスメントと看護 入浴・洗髪	
11	地域で生活する人への看護 多様な生活や価値を土台とした看護展開の基礎	
12	地域で生活する人への看護 【演習】 「息を吸う・吐く」 援助の実際①②	
13	気管内吸引・在宅酸素療法・人工呼吸療法	
14	地域で生活する人への看護 「息を吸う・吐く」アセスメントと看護 全体像整理	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	事前に提示する課題に真摯に取り組むこと。また、講義内容についての復習とともに関連する科目の復習をすること。

評価方法	筆記試験 75 点 課題 25 点 〔「動く・眠る」、「食べる」、「排泄する」、「息を吸う・吐く」 「お風呂に入る・清潔にする」の行動記録（詳細は授業時に説明）〕
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践 医学書院 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ
参考文献	看護がみえる vol.5 対象の理解 I メディックメディア 随時提示
備考	

3 年次 全期	地域・在宅看護論Ⅳ	講師名	専任教員	必修	2 単位 45 時間
科目のねらい	地域で生活する人とその家族の多様な生活や価値を土台とした看護実践をするために、対象の生活を支える看護の思考過程と基礎知識を活用した援助方法について学ぶ。また、対象の生活を支えるための多職種連携の必要性や看護の役割について、演習をとおして理解する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	訪問看護ステーションづくり① オリエンテーション	地域・在宅看護論Ⅱの既習学習を復習して臨むこと
2	訪問看護ステーションづくり②	
3	訪問看護ステーションづくり③	
4	訪問看護ステーションづくり④ 発表	
5	地域で生活する療養者を支える看護展開の基本	地域・在宅看護論Ⅰ～Ⅲの既習学習を活用して取り組むこと 家族関係論、精神看護学Ⅲの看護の展開の既習事項を活用すること
6	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習① 在宅療養安定期にある療養者の情報収集と整理	
7	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習② 在宅療養安定期にある療養者のアセスメント	
8	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習③ 在宅療養安定期にある療養者の全体像の整理（関連図）	
9	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習④ 在宅療養安定期にある療養者の看護展開のまとめ	
10	地域で生活する療養者を支える看護の意味を考える① 終末期にある療養者の事例検討	地域・在宅看護論Ⅱの「在宅看護の基本理念」を復習して臨むこと
11	地域で生活する療養者を支える看護の意味を考える② 終末期にある療養者の事例検討	
12	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習⑤ 急性増悪期にある療養者の情報集・整理とアセスメント	地域・在宅看護論実習Ⅰの学びと関連付けて学習する 発達看護論Ⅲ・Ⅳ（高齢者の特徴と生活）、健康段階別看護論Ⅱ・Ⅲ（生活の再構築と生活調整）を復習して臨むこと
13	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習⑥ 急性増悪期にある療養者の全体像の整理（関連図）	
14	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習⑦ 急性増悪期にある療養者の看護計画立案	
15	地域で生活する療養者を支える看護の展開演習⑧【演習】 訪問看護の実際（シミュレーション）	地域・在宅看護論Ⅳの第 12 回～14 回の学習をもとに実践できる準備をする
16		
17		

18	生活を支えるためのマネジメントや多職種連携	地域・在宅看護論Ⅱ、チーム医療、健康段階別看護論実習Ⅰにおける多職種連携の既習事項を復習する ナースングチャンネル「在宅看護」の「療養を支える在宅ケアチーム」「療養の場の移行に伴う看護」を視聴して臨むこと
19	地域包括ケアシステムにおける多職種連携の実際①② ケアマネジメントの実際と看護の役割	
20	連携場面：担当者会議、地域ケア会議、共同指導	
21	地域包括ケアシステムにおける多職種連携の実際③④ シミュレーション	
22	事例に基づいて情報整理・アセスメント	
23	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	事前に提示する課題に真摯に取り組むこと。また、講義内容についての復習とともに関連する科目の復習をすること。 アクティブラーニングが予定されている場合、事前の学習の取り組みを行った上で視点をもって臨むこと
評価方法	筆記試験 50 点 課題 50 点 （詳細は授業時に説明） 訪問看護ステーションづくりの発表資料 地域で生活する療養者を支える看護の展開演習の看護記録用紙 地域包括ケアシステムにおける多職種連携の実際で使用するワークシート
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践 医学書院 基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社 公衆衛生がみえる メディックメディア
参考文献	看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア ナースングチャンネル、国民衛生の動向 厚生労働統計協会 保健・医療・福祉のための多職種連携教育プログラム ミネルヴァ書房
備考	

1 年次 前期	発達看護論 I (概論)	講師名	専任教員	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	胎児期から死に向かって順序性・連続性を持ち成長発達し続ける看護の対象である人は、時間経過の中で変化していく生体機能や生活構造の中で発達課題を追及していく生活者としての人の理解と看護の基礎を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	成長発達し続ける人の理解① (成長発達の順序性と連続性)	関連する科目の復習をして授業に臨むこと ・心理学 ・生涯発達論 ・看護学概論 ・精神看護学 I など 事前準備は授業内で随時提示
2	成長発達し続ける人の理解② (私の成長と発達)	
3	成長発達し続ける人の理解③ (身体・心理・社会的側面の成長と発達)	
4	生活している人の成長と発達① シニア・妊婦・幼児体験 (発達段階と発達課題) 【演習】	
5	生活している人の成長と発達② (発達段階と発達課題)	
6	生活している人の成長と発達③ (現在・過去・未来)	
7	生活している人の成長と発達④ (現在・過去・未来)	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第 2 条のとおり
学習上の留意点	各発達段階の対象の状況・立場について、自分に置き換えて(立場を変換して)考えながら授業に臨むこと。授業内では、ブレインダンプを用いて自己の思考を表現しながら、シンク・ペア・シェアを通して他者と意見交換を行う時間を取り入れている。学習内容確認のワークを通して知識を関連させ学びが広がるよう積極的に臨む。
評価方法	筆記試験 60 点 レポート(演習後レポート、講義終了後レポート) 40 点 (詳細は授業時に説明)
テキスト	看護のための人間発達学 舟島なをみ 医学書院 看護がみえる vol.5 対象の理解 I メディックメディア
参考文献	随時提示
備考	

1 年次 前期	発達看護論Ⅱ（成人）	講師名	専任教員	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	成長発達していく成人の特徴と生活の理解、健康の保持・増進や疾病の予防と支援について学び、看護について学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	成長発達していく成人の理解	関連する科目の復習をして授業に臨むこと ・心理学 ・生涯発達論 ・発達看護論Ⅰ など 事前準備は授業内で随時提示
2	成人の特徴と生活① (身体的発達と特徴)	
3	成人の特徴と生活② (心理的発達と特徴)	
4	成人の特徴と生活③ (社会的発達と特徴)	
5	成人の健康と生活①	
6	成人の健康と生活② (身体計測) 【演習】	
7	成人の健康の保持・増進や疾病の予防① (保健医療福祉の動向と対策)	
8	成人の健康の保持・増進や疾病の予防② (生活習慣に関連する健康課題)	
9	成人の健康の保持・増進や疾病の予防③ (ストレスに関する健康課題)	
10	成人の健康の保持・増進や疾病の予防④ (職業に関する健康課題)	
11	成人の健康の保持・増進や疾病の予防⑤⑥	
12	【企業見学】	
13	成人の健康と生活への支援①	
14	成人の健康と生活への支援②	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第2条のとおり
学習上の留意点	発達看護論Ⅰ（概論）を復習し授業に臨むこと。成人（大人）である自分の理解を深めながら学ぶ。授業内では、ブレインダンプを用いて自己の思考を表現しながら、シンク・ペア・シェアを通して他者と意見交換を行う時間を取り入れている。学習内容確認のワークを通して知識を関連させ学びが広がるよう積極的に臨む。
評価方法	筆記試験 80 点 企業見学後レポート 20 点
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院
参考文献	看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア
備考	

1 年次 後期	発達看護論Ⅲ（老年①）	講師名	専任教員	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	成長発達していく高齢者の特徴と生活の理解と、健康の保持・増進や疾病の予防と支援について学び、看護について学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	成長発達していく高齢者と家族の理解	関連する科目の復習をして授業に臨むこと ・心理学 ・生涯発達論 ・発達看護論Ⅰ ・発達看護論Ⅱ など
2	高齢者の特徴と生活① （身体的発達と特徴）	
3	高齢者の特徴と生活② （身体的発達と特徴）	
4	高齢者の特徴と生活③ （心理的発達と特徴）	
5	高齢者の特徴と生活④ （社会的発達と特徴）	
6	高齢者の健康と生活	事前準備は授業内で随時提示
7	高齢者の健康と生活への支援	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第 2 条のとおり
学習上の留意点	発達看護論Ⅰ（概論）を復習し授業に臨むこと。授業内では、ブレインダンプを用いて自己の思考を表現しながら、シンク・ペア・シェアを通して他者と意見交換を行う時間を取り入れている。学習内容確認のワークを通して知識を関連させ学びが広がるよう積極的に臨む。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院
参考文献	看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア 新体系看護学全書 老年看護学概論/老年保健 老年看護学① メヂカルフレンド社 看護学テキスト 老年看護学概論「老いを生きる」をささえることとは 南江堂 その他随時提示
備考	

2 年次 全期	発達看護論Ⅳ（老年②）	講師名	専任教員 外部講師	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	高齢者の生活とその特徴の理解を深め、加齢変化に伴う高齢者の日常生活を支える看護および技術を学ぶ。また、認知機能の変化を知り、看護を考えることができる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	高齢者の生活機能の特徴と理解①	関連する科目の復習をして授業に臨むこと
2	高齢者の生活機能の特徴と理解②	
3	高齢者の食生活への支援①	
4	高齢者の食生活への支援② 【演習】	・発達看護論Ⅰ ・発達看護論Ⅱ ・発達看護論Ⅲ
5	高齢者の排泄機能の変化と支援①	・看護援助論Ⅰ ・看護援助論Ⅱ
6	高齢者の排泄機能の変化と支援② 【演習】	関連科目のうち ・発達看護論Ⅲ（老年①）
7	高齢者の皮膚の変化と清潔への支援①	
8	高齢者の皮膚の変化と清潔への支援② 【演習】	
9	高齢者の日常生活を支える基本的動作と環境への支援	については必ず復習し授業資料を持参する
10	高齢者の生活リズムを整える支援	
11	高齢者の生活機能への看護	
12	高齢者の認知機能の変化と看護①	
13	高齢者の認知機能の変化と看護②	事前準備は授業内で随時提示
14	老いを生きる高齢者への看護	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第2条のとおり
学習上の留意点	発達看護論Ⅲ（老年①）科目を復習し、知識の整理をして授業に臨むこと。 授業内では、ブレインダンプを用いて自己の思考を表現しながら、シンク -ペア-シェアを通して他者と意見交換を行う時間を取り入れている。高齢 者の身体・心理・社会的側面を特徴を理解し必要な看護を考えていく。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院
参考文献	看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア 看護学テキスト 老年看護学概論「老いを生きる」をささえることとは 南江堂 老年看護技術 第2版 医学書院 その他随時提示
備考	

1 年次 後期	発達看護論Ⅴ (子どもと家族①)	講師名	専任教員 外部講師	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	成長発達していく子どもと家族の特徴を深め、生活に対する支援について学び看護を考えることができる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	成長発達していく子どもの理解	
2	子どもの特徴と生活① (身体的発達と特徴)	
3	子どもの特徴と生活② (心理的発達と特徴)	
4	子どもの特徴と生活③ (社会的発達と特徴)	
5	子どもとその家族の特徴と理解①	
6	子どもとその家族の特徴と理解②	子どもと家族を取り巻く社会情勢についての調べ学習
7	子どもの健康と生活への支援	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第 2 条のとおり
学習上の留意点	子どもに関心を持ち授業に臨むこと。 テレビや新聞・雑誌に目を通し、子どもを取り巻く社会の動向に関心を寄せること。
評価方法	筆記試験 80 点 レポート「子どもの成長発達について」 20 点（詳細は授業時に説明）
テキスト	系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
参考文献	看護がみえる vol.5 対象の理解 I メディックメディア
備考	

2 年次 前期	発達看護論Ⅵ (子どもと家族②)	講師名	専任教員	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	子どもの各期における成長発達に応じた支援および、健康の増進や疾病の予防について学び、看護について考えることができる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	子どもとその家族の健康増進への看護① (新生児期の成長・発達に応じた生活への支援)	
2	子どもとその家族の健康増進への看護② (乳児期の成長・発達に応じた生活への支援)	
3	子どもとその家族の健康増進への看護③ (乳児期の成長・発達に応じた生活への支援)	
4	子どもとその家族の健康増進への看護④ (幼児期の成長・発達に応じた生活への支援)	
5	子どもとその家族の健康増進への看護⑤ (幼児期の成長・発達に応じた生活への支援)	
6	子どもとその家族の健康増進への看護⑥ (幼児期の成長・発達に応じた生活への支援)	
7	子どもとその家族の健康増進への看護⑦ (学童期の成長・発達に応じた生活への支援)	
8	子どもとその家族の健康増進への看護⑧ (学童期の成長・発達に応じた生活への支援)	
9	子どもとその家族の健康増進への看護⑨ (思春期の成長・発達に応じた生活への支援)	
10	子どもとその家族の健康増進への看護⑩ (成長・発達に応じた栄養と食生活への支援)	
11	子どもとその家族の健康増進への看護⑪ 【演習】 (成長・発達に応じた栄養と食生活への支援)	
12	特別な状況にある子どもと家族の看護①	
13	特別な状況にある子どもと家族の看護②	
14	障害とともに生きる子どもと家族の看護	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第 2 条のとおり
学習上の留意点	形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、発達看護論Ⅴ（子どもと家族①）を復習し授業に臨むこと。日ごろから小児医療に関するテレビや新聞・雑誌に目を通し、子どもの健康増進への看護に関心を寄せること。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 新訂第 2 版「写真でわかる小児看護技術アドバンス」 インターメディカ
参考文献	看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア
備考	

2 年次 全期	発達看護論Ⅶ (子どもと家族③)	講師名	専任教員	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	成長発達の特徴をふまえ、疾病や治療が子どもと家族に与える影響について理解を深め、子どもと家族に必要な知識・技術を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響の理解 (発達段階に合わせた子どもと家族への支援)	
2	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護① (身体的特徴と成長発達におよぼす影響)	
3	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護② (子どものストレスと成長発達におよぼす影響)	
4	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護③ (外来における子どもと家族への支援)	
5	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護④ (活動制限が必要な子どもと家族への看護)	
6	子どもの看護実践場面における倫理・意思決定支援① (子どもの成長発達に応じた病気の説明と同意)	
7	子どもの看護実践場面における倫理・意思決定支援② 【演習】 (子どもの成長発達に応じた病気の説明と同意)	援助計画立案
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第 2 条のとおり
学習上の留意点	発達看護論Ⅴ (子どもと家族①) 発達看護論Ⅵ (子どもと家族②) を復習し臨むこと。テレビや新聞・雑誌に目を通し、子どもを取り巻く社会の動向に関心を寄せること。子どもの生活環境の変化に関心を寄せること。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 新訂第 2 版「写真でわかる小児看護技術アドバンス」 インターメディカ
参考文献	看護がみえる vol.5 対象の理解 I メディックメディア
備考	

2 年次 後期	発達看護論Ⅷ (リプロダクティブ・ヘルス①)	講師名	専任教員 外部講師	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	成長発達する人の性について理解し、女性の健康についてライフサイクルの観点から幅広く学習する。現代の女性を理解し、リプロダクティブヘルス・ライツの考え方をもとにヘルスサービスやエンパワメント、生命倫理について学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	成長発達する人の性〈セクシュアリティ〉① (リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)	
2	成長発達する人の性〈セクシュアリティ〉② (リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)	
3	女性のライフサイクルと健康① (ライフサイクル各期の理解と看護)	
4	女性のライフサイクルと健康② (ライフサイクル各期の理解と看護)	
5	リプロダクティブ・ヘルスに関する社会の変遷と現状 (統計からみた動向と主な法律)	
6	リプロダクティブ・ヘルスに関する倫理① (生殖補助医療と看護)	
7	リプロダクティブ・ヘルスに関する倫理② (生殖補助医療と看護)	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第 2 条のとおり
学習上の留意点	形態機能学や妊娠のメカニズムについて復習して臨むこと。性や生殖・出産・育児など母性を取り巻く社会の動向に関心を持ち、テレビや新聞・雑誌に目を通し臨むこと。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院
参考文献	看護がみえる vol.5 対象の理解 I メディックメディア
備考	

3 年次 全期	発達看護論Ⅸ (リプロダクティブ・ヘルス②)	講師名	専任教員	必修	2 単位 45 時間
科目のねらい	女性のライフサイクルの中で、周産期の母子とその家族を中心とした家族の健康に焦点をあて、対象の生理的・社会的・心理的な変化と生活への適応、正常な経過を促進する看護や正常からの逸脱時の看護を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	周産期にある人と家族の理解	
2	妊娠期にある人の理解と看護① (妊娠の経過・胎児の発育と生理)	
3	妊娠期にある人の理解と看護② (妊娠の兆候と身体的変化、心理的变化)	
4	妊娠期にある人の理解と看護③ (妊婦に必要な日常生活の援助)	
5	妊娠期にある人の理解と看護④⑤ 【演習】 (子宮底測定、腹囲測定、レオポルド触診法、胎児心音聴取)	援助計画立案
6		
7	妊娠期にある人の健康問題に対する理解と看護	
8	分娩期にある人の理解と看護① (産婦の理解と分娩の定義)	
9	分娩期にある人の理解と看護② (正常な分娩の経過)	
10	分娩期にある人の理解と看護③ (分娩第1期にある人の支援)	
11	分娩期にある人の理解と看護④ (分娩第2期から第4期にある人の支援)	
12	分娩期にある人の理解と看護⑤ 【演習】 (呼吸法、産痛緩和法)	援助計画立案
13	分娩期にある人の健康問題に対する理解と看護	
14	産褥期にある人の理解と看護① (褥婦の理解と産褥の経過)	
15	産褥期にある人の理解と看護② (身体的変化、進行性変化)	
16	産褥期にある人の理解と看護③ (心理的变化と母親役割過程)	
17	産褥期にある人の理解と看護④ (褥婦の健康と生活への支援)	
18	産褥期にある人の理解と看護⑤ (母乳育児への支援)	

19	産褥期にある人の理解と看護⑥⑦	【演習】	
20	(子宮底測定、子宮底輪状マッサージ、 悪露交換、乳房の観察とマッサージ、授乳姿勢と吸着)		援助計画立案
21	産褥期にある人の理解と看護⑧ (親子の愛着形成の支援と育児技術獲得への支援)		
22	産褥期にある人の健康問題に対する理解と看護		
23	評価		

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第2条のとおり
学習上の留意点	形態機能学・発達看護論Ⅷの復習をして臨むこと。妊娠・出産・育児についての雑誌やテレビや新聞に目を通し、マタニティやベビー用品など実際に見て、関心を持ち臨むこと。技術演習は事前学習として援助計画を記載し臨むこと。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院
参考文献	看護がみえる vol.5 対象の理解 I メディックメディア
備考	

3 年次 後期	発達看護論Ⅹ (リプロダクティブ・ヘルス③)	講師名	専任教員	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	女性のライフサイクルの中で、周産期の母子とその家族を中心とした家族の健康に焦点をあて、早期新生児期の対象理解と看護を学ぶ。さらに事例を通した看護過程の展開により産褥期にある母子およびその家族を理解し、必要な看護を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	早期新生児と家族の理解 (早期新生児期の特徴と生理的変化)	
2	早期新生児の理解と看護① (母子相互作用、親と子のきずな)	
3	早期新生児の理解と看護② (早期新生児の健康と発育)	
4	早期新生児の理解と看護③④ (バイタルサイン測定、沐浴、清拭) 【演習】	援助計画立案
5		
6	早期新生児期の健康問題に対する理解と看護	
7	産褥期にある母子と家族への看護展開①	
8	産褥期にある母子と家族への看護展開②	
9	産褥期にある母子と家族への看護展開③	
10	産褥期にある母子と家族への看護展開④	
11	産褥期にある母子と家族への看護展開⑤	
12	産褥期にある母子と家族への看護展開⑥⑦ 【演習】 (シミュレーション)	援助計画立案
13		
14	産褥期にある母子と家族への看護展開⑧	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規定 第 2 条のとおり
学習上の留意点	形態機能学・発達看護論Ⅷ・発達看護論Ⅸの復習をして臨むこと。技術演習は事前学習として援助計画を記載し臨むこと。
評価方法	筆記試験 80 点 課題：母子の対象理解用紙 20 点（詳細は授業時に説明）
テキスト	系統看護学講座 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院
参考文献	看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア
備考	

2 年次 前期	健康段階別看護論Ⅰ（概論）	講師名	専任教員	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	さまざまな健康段階にある人とその家族を理解し、その健康段階に沿って看護を実践するために必要な健康段階各期（急性期・回復期・慢性期・終末期）の特徴を学び、健康段階別の看護の理解につなげる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	さまざまな健康段階にある人の理解 ・健康段階各期における健康レベルと看護	・看護学原論、看護学概論を復習しておくこと ・健康の概念について整理しておく
2	急性期にある人とその家族の特徴 ・ショックの受容過程 ・意思決定支援	
3	回復期にある人とその家族の特徴 ・生活の再構築 ・障害受容過程	
4	慢性期にある人とその家族の特徴① ・病とともに生きる ・セルフモニタリング ・疾病の受容過程	
5	慢性期にある人とその家族の特徴② ・アドバンスケアプランニング ・継続的な支援体制と連携	
6	終末期にある人とその家族の特徴 ・エンドオブライフケア ・死の受容過程 ・全人的苦痛の理解	
7	生活する人にとっての健康レベルと看護	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	1 年次および 2 年次の履修科目を復習し、知識の整理をして授業に臨むこと。 特に、看護学原論・看護学概論の復習をし、健康の概念について整理しておく。 この科目の学びを健康段階別看護論Ⅱ～Ⅶの学習で活用するので、必ず復習をすること。 理解できないことはそのままにせず、講義中や講義後、ぜひ質問してください。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院
参考文献	看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版
備考	

2 年次 後期	健康段階別看護論Ⅱ (回復期)	講師名	専任教員 外部講師	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	健康障害によりリハビリテーションや生活の再構築が必要となる人とその家族を理解し、その人が持っている能力を高め回復を促進する看護について学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	健康障害によりリハビリテーションや生活の再構築が必要となる人とその家族の理解	健康段階別看護論Ⅰを復習して臨む
2	リハビリテーションが必要となる人とその家族への看護① (身体機能回復の促進)	骨・関節に障害がある人の事例を通して学ぶため、関連する科目の復習をして臨む
3	リハビリテーションが必要となる人とその家族への看護② (生活行動の自立支援)	
4	リハビリテーションが必要となる人とその家族への看護③ (治療が子どもと家族に与える影響とその看護)	
5	リハビリテーションが必要となる人とその家族への看護④ (病院から地域に向かう子どもとその家族への退院支援)	
6	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護① (障害受容の支援・二次的障害の予防)	中枢神経に障害のある人の事例を通して学ぶため、関連する科目の復習をして臨む
7	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護② 【演習】 残存機能の活用に向けた看護実践	
8	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護③ (生活行動の自立支援)	排泄経路を変更した事例を通して学ぶため、関連する科目の復習をして臨む
9	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護④ 【演習】 生活行動の自立に向けた看護実践	
10	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護⑤ (社会的支援)	
11	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護⑥ (代償機能獲得に向けた支援)	脳神経に障害のある人の事例を通して学ぶため、関連する科目の復習をして臨む
12	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護⑦ 【演習】 くらしの場に戻るための看護実践	
13	生活の再構築が必要となる人とその家族への看護⑧ (くらしの場に戻るための退院調整)	
14	健康障害によりリハビリテーションや生活の再構築が必要となる人とその家族の看護	
15	評価	